

口径30メートルの超大型望遠鏡 ハワイで建設中

TMTの夢語る

25日に国立天文台

研究者・家教授

国立天文台(三鷹市)が24、25両日、年に1度の一般公開日を迎える。ハワイ・マウナケア山で建設が始まった口径30メートルの超大型望遠鏡TMTについて、長年研究に携わってきた家正則・国立天文台教授(65)が25日に講演する。

TMTは、現在最大級の光学望遠鏡(口径8〜10メートル)の約10倍の光を集め、極めて暗い天体も観測できる。日本、米国、カナダ、中国、インドの5カ国が参加し、総建設費は約1500億円。2021年度末の完成を目指す。家教授は計

画を進める5カ国約100人の研究者のナンバー2だ。

家教授の研究チームは、1999年にTMT建設地



TMTをモチーフにしたキーを手にする家正則教授

の隣に造られたすばる望遠鏡を使い、約129億光年かなたにあり、地球から最も遠い銀河を発見している。その4倍近くも細かく観測可能なTMTでは、宇宙で最初に生まれた銀河や星の解明に挑むとともに、地球のように生命が存在しそうな惑星を探す。「すばるで見つけた特色ある天体をTMTで詳しく観測すること、ノーベル賞級の研究ができる」と期待する。

家教授の講演は25日午後2時半から。午後1時からプリンストン大のエド・ターナー教授の講演がある。申し込み不要。一般公開は24日午後2時〜7時、25日午前10時〜午後7時。晴天なら天体観望会もある。無料。

(高橋友佳理)